

22年前のことです。私たちのスタジオが山下町の総合高校の近くにあって、夏の暑い日の昼下がりに、スタジオの通用口の前に可愛い子猫がいて私を見て鳴いたのです。綺麗な毛並でずっと飼って猫だろうと思つて、そのまま帰ってきたのですが、翌日、行くと、同じ場所でも急変し声も弱々しくなっていました。事務局長の平野さんと職員の方々が動物病院を探し連れて行ったところ、事故で腰に衝撃を受け、通常の歩行は困難と診断。「このようなケースでは安楽死も多いですよ」という医師の言葉に彼女たちは生を選択して事務所に帰ってきたのです。小顔に大きな丸い目をした彼は平蔵君と名付けられ事務局のスタッフの懸命なお世話が始まりました。朝晩移動する車のリアウィンドウに自力で登ったり、散歩に出かけるなどして元気を取り戻し、その様子はNHKのニュース845やフジテレビに流れ、或いは猫のカレンダーの1月号を飾るなど多くの猫ファンを勇気づけたようです。老齢期には人並みの病気になる、毎日点滴に連れて行くなど手厚い看護の中で平蔵君は生涯を閉じました。因みに、彼の誕生日は2月21日でした。

2月22日、日本ではこの日は猫の日です。アメリカでは10月29日、ロシアは3月1日。国際動物福祉基金では8月8日とまちまちです。古代ギリシャでは文献いけば聖書にもイソップ物語にも猫はでてきませんし、中国、日本の十二支にもありません、やがてヨーロッパで都市化が進むと、ネズミの害が増え、ネズミ取りの上手な猫を迎えるようになりました。刻々と変わる瞳と静電気を発する毛に魔性を感じる人もおり、魔女裁判の頃には黒い猫はかくれ魔女として処分されたと言います。ですから、現在でもヨーロッパでは黒猫は絶対数少ないと言われています。

この横浜にも猫の伝説や物語があります。戸塚駅を通る横浜市営の地下鉄「ブルーライン」に踊り場という駅があり、おしゃやかなデザイン猫の絵やレリーフが駅の内外に見られます。伝説は昔、水本屋という醤油屋があり、その主人が干していた手ぬぐいがたびたび無くなるのに気が付いて糸を付けて自分の手に結わいていたところ、夜中に引っ張る者がいるので見ると自分の飼った猫でした。後をついて行くと長後街道の峠で猫が集まっているのです。すると飼った猫は持って来た手ぬぐいを頭に被ってリーダーとして皆に踊りを教えていたのです。これが誰言うともなく踊り場という地名になったというのです。駅前立つ石碑には、このいわれが書かれ、ネコの霊を慰め、住民の安泰を祈念してと。元文式年(1737)造立と書いてあるのです。

また、私が今住んでいる金沢区にも猫にまつわる話があります。奈良時代、中国の南宋から「経典」を輸入していましたが、中国の船は経本がネズミに食べられないように、また船員たちの食糧がネズミに荒されないように一緒に猫を乗せてきたのです。六浦中学校の裏手に今でも三艘(さんそう)という地名があります。三艘の船がそこに着いて経本は金沢文庫に運ばれたのです。人々は唐猫(からねこ)或いは金沢猫と呼び、猫の多くはそこで上陸し日本猫に帰化したのです。今でも猫畑という地名が残っていますし、千光寺には猫塚があり、また、港の見える丘公園にある大佛次郎記念館も猫の置物が多く飾られ、近隣

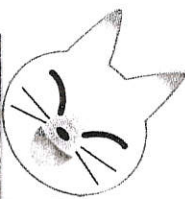
**国際シニア合唱祭** みなとみらい大ホール  
**ゴールデン ウェーブ in 横浜**  
4月11日(月) 12日(火) 13日(水)  
●12日 ザ・シワクチャーズ横浜出演  
Fブロック6番目 4時6分 入場料500円

**横浜こども市民ミュージカル**  
3匹の猫の大冒険「ミケ・ラン・ジェロ」  
7月23日、24日公演 関内ホール  
6歳～18歳 出演者募集中3/26まで  
赤い靴記念文化事業団 641-3066



今後のスケジュール

3/9(水) 中区町内会感謝式 ロイヤルホール横浜 市長出席 横浜市歌 斉唱 横浜ローゼス出演 関係者のみ
3/12(日) 震災チャリティ 横浜駅西口かながわ県民センター 青隊・ATF/男声合唱団 出演、10:30～ 入場無料
4/11日(月)～13日(水) 国際シニア合唱祭 ゴールデン ウェーブ in 横浜 シワクチャーズ 横浜出演 12日 Fブロック⑥4時6分
7/10日(日) 杉田劇場 第29期あいくつ定期演奏会 ATF、赤い靴ジュニアコーラス
7月23日(土) 24日(日) 横浜市民こどもミュージカル 「ミケ・ラン・ジェロ」 3匹の猫の大冒険 関内小ホール
8/20(土) インターコンチネンタルホテル 25周年記念 アトリウム 赤い靴ジュニアコーラス出演
8/22(月) 小黑恵子先生メモリアル 花とライオン児童合唱音楽賞 受賞合唱団 参加 赤い靴ジュニアコーラス赤青隊 あいくつ テンダーフット みどりアートパーク JR 横浜線 長津田駅 北口



← 在りし日の平蔵君、目の色がターコイズブルーです。

にいる野良猫も気品のある猫が多いようです。大佛先生のご本「猫のいる日々」は随筆集の一つですが、猫好きの方にはお勧めです。今、空前の猫ブームと言われ、ネコに関する本が多数書店に並べられ、キャットフードも新作が溢れています。なんでも現在ペット犬が992万匹いるのに対し、ネコは987万匹と迫っているのだそうで、このブームの経済効果は2兆3千億円と読んでいる経済学者もいるのです。便乗したわけではありませんが、3月1日公募の横浜市民こどもミュージカルが三匹の猫の大冒険を副題にした「ミケ、ラン・ジェロ」に決まりました。絵は猫絵の一人者「渡辺あきお先生」で文は私が書きました。1995年に扶桑社(フジテレビ系)で出版したものです。横浜の根岸・本牧が主たる舞台です。昔、天気予報のない時代、漁師は漁船に猫を乗せて漁に出ました。猫たちは嵐が来る前兆としてからだを非常にかゆくになり、手で全身を大げさに搔くのです。漁師たちはこれを見て漁をやめ急いで帰ります、これは難を逃れる智慧ですね。これを顕著に知らせるのが「三毛猫のオス」ですが、染色体が間違わなければ生まれませんとも言われます。今ではオスの値段は1匹2000万円という風評ですが、動物愛護協会から航行安全を願って南極行の宗谷に寄付され、南極でタロー・ジローや2酸化炭素をかき分けるカナリヤと一緒に実験のために残されたのだそうです。暖を採るために機械に巻き込まれてけがをしたりしたのですが、縁起三毛猫を乗せないで一時帰国した「宗谷」は途中氷に囲まれて脱出できず、ロシアの砕氷船「オビ号」に救助されたのです。名は隊長永田武にあやかっ「タケシ」と呼ばれて皆に可愛がられていましたが、その後、タロー、ジローたちと無事に日本に帰って間もなく、誰知るともなく消えてしまってしまったということです。

余談ですが、朝日新聞は4月1日より夏目漱石の「吾輩は猫である」を連載するそうです。

さて、間もなく東日本大震災が5年になります。避難して県内にお住いの方々「Song for 東北」が催され、青隊とテンダーフット、横浜★男声合唱団が出演します。10時30分より、入場無料。

2016.2.29 団長 松永 春